

自彊前進

NO. 17 平成29年1月26日(木)
附属新潟中学校 学校だより

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の詞から)



平成29年1月19日(木) 生徒会リーダー研修会

生徒会引継特集

新たな伝統の創造を!

副校長 津野 庄一郎

来年は、附属新潟中学校創立70周年です。この歴史的な節目の意義を、会員である皆さん一人一人がどうとらえて、どのような取組を具体的に実行していくかが最も重要です。それは、どのような生徒会を創っていききたいのか。そして、どのような附属新潟中学校を創っていききたいのかに繋がります。過去の先輩の足跡から真摯に学び、継続すべきものと改善すべきものを峻別して、理想実現に向けて主体的に行動して行ってほしいと切望しています。

今年度の附属新潟中学校は、教育目標「生き方を求めて学ぶ生徒」すなわち「自ら考え行動する。考えを吟味し判断する。他者を尊重し協調する。よりよいものを創造していく。」を実現するため、全校生徒と教職員が互いに心を通い合わせて信頼し合う関係を築いていくことを重視し、国の拠点校、地域のモデル校、教育実習の基幹校としての使命を果たしながら、生徒一人一人が学ぶ喜びを実感・納得できるよう、全力で取り組んできました。

その結果、様々な学校行事や生徒会活動、学年活動などの場面で、リーダーとフォロワーの関係性において、各人が持ち味を発揮し、よりよいものを創りあげようと積極的に協働する姿が見られました。特に時間意識・相手意識を大切にして取り組んだ体育祭、すなやま完歩大会、演劇発表会、音楽のつどいなどにおける、ひたむきな取組と豊かな表現力は、まさに附属新潟中の校風である「自主独立・協同」の発露そのもので、久しぶりに感動的な場面に出会うことができました。その背景には、何よりも皆さんの先輩である3年生が附属新潟中を誇りと感じ、明るく澁刺として

学校生活を過ごし、後輩たちのよき手本となる姿を示してくれたからだと感じています。「先輩が後輩を育てる」、「後輩は先輩から学ぶ」、この附属新潟中のよき伝統としての自然な姿が変わらずにあることを、私は何より嬉しく思います。同時に、3年生のリーダーシップに対して、よきフォロワーとして、積極的に活動に参加・参画した後輩の姿も素晴らしいと感じています。

折しも、昨年国政の選挙権が18歳以上に引き下げられ、中学・高校段階において現実に社会をつくる主権者としての自覚や態度の形成が一層強く求められるようになりました。皆さんには生徒会活動を通して、よりよい社会を創る担い手として、そのやり方や方法を、生徒会という「自治」の体験を通して、より確かなものとしてほしいと願います。

時と場を選ばず、附中生としての自覚と誇りを持ち、各人が精一杯の努力をもってして、そのもてる力を余すことなく行動に移していくこと、伝統の生徒憲章の意味や価値をかみしめて、会員一人一人の血肉に変えていくことができれば、附属新潟中生徒会は「自主独立・協同」の理想の姿に近づくとともに、各人が真に自立した個人としての歩みを進めていくことができると確信しています。

「温故知新」「感謝」

生徒会担当 坂井 昭彦

平成28年度生徒会も、新年度の生徒会リーダーにバトンを渡す時期を迎えました。思えば、昨年2月19日、生徒会専門部長や書記長の決定以降、3月2日の第1回リーダー研修会、第2回リーダー研修会、生徒会役員会議など多くの話し合い活動を行ってきました。途中、様々な試練がありました。第1回目、2回目の専門部会では、専門部長が思いどおりに会議を進めることができず、急遽、役員会を開催して、専門部会の進め方や、専門部会を行うまでの水面下における会員へのねまわしなどを確認するなど、日々、リーダーが目指す生徒会「創造」のために力を尽くす姿がありました。

今年度の活動をキーワードで表すと、「ねまわし」「気配り」「心配り」「報連相」「可視化」「貢献」ではなかったでしょうか。

さらに、生徒会書記局(書記)の皆さんもリーダーの皆さんを支えてくれました。生徒総会や議会、行事などで常にビデオカメラで撮影を行い(デジタルポートフォリオ)、さらに、よさの価値付けなどを「生徒会広報紙」を発行することを通して行っていました。生徒総会時など資料の印刷や綴じ作業なども迅速に、かつ丁寧に行っていました。その他にも、生徒会室の整理、整頓など、見えにくいところにも「気配り」「心配り」がありました。最高のチームでした。

生徒の活躍

○第17回創造ものづくり教育フェア全国作品展(技術・家庭科)

厚生労働大臣賞	2-1	若井 知佳
林野庁長官賞	1-2	宮川 真緒
全日本中学校技術・家庭科研究会長賞	2-1	大河内詩歩